

【警告】

・ 本品の使用中は、常に患者を監視すること。もし、異常が生じたときは適切な措置を講ずること。

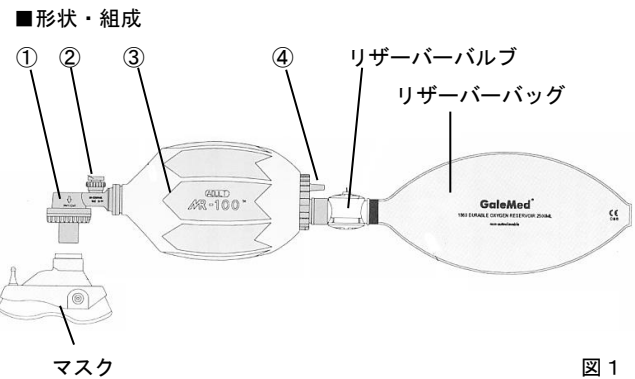
【禁忌・禁止】

・ 自発呼吸のある人には使用しないこと。

・ 口腔内に異物がある場合、異物を除去してから本器を使用すること。

・ 高濃度酸素の使用中は、火気の取扱いに注意すること。

****【形状・構造及び原理等】**



番号	名 称	材 質 (他)
①	呼 気 弁 部 一 式	ポリサルフォン/シリコンゴム
②	過 圧 制 限 弁	ポリサルフォン/ステンレス鋼
③	送 気 用 バ ッ グ	ポリサルフォン/シリコンゴム
④	酸素チューブ接続口 (吸 入 弁 部 一 式)	ポリサルフォン/シリコンゴム

リザーバーバルブ、リザーバーバッグ及びマスクは別途販売品

■種類

商品コード	サイズ	送気用 バッグ容量	過圧制限弁 作動圧力	リザーバー バッグ容量
ID-101MR	成人用	1500ml	45cmH ₂ O	2500ml
ID-102MR	小児用	600ml	35cmH ₂ O	
ID-103MR	乳児用	280ml	30cmH ₂ O	600ml

■作動・動作原理

送気用バッグの圧迫により、バッグ内の空気が呼気弁から送出され、マスクを介して肺胞内に送気されます。圧迫した手を放す(緩める)とバッグが復元し、バッグ内が陰圧になり吸入弁部

より空気がバッグ内に吸入されます。

***【使用目的又は効果】**

■使用目的

手動式蘇生(手動式心肺蘇生・人工呼吸)用バッグとして用いる。

***【使用方法等】**

- 使用方法
1. 本品は滅菌処理されておりません。使用前にゴミ・汚れ等がないことを確認してください。
 2. 呼気弁の作動を確認し、各構成部品を接続してください。
 3. 指又は開口器等で患者の口を開き、口腔内に異物がある場合は取除いてから患者の気道を確保してください。
 4. 仮死状態の際、舌根の沈下による気道閉塞又は嘔吐物・血液等による気道閉塞がある場合には、吸引除去してからエアウェイを用いてください。

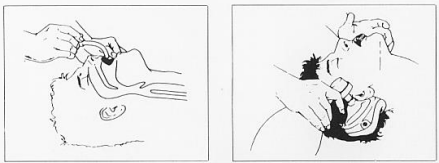


図 2

- 口腔内の異物の除去 頸部後屈気道の確保
5. 口と鼻をマスクで覆い、空気が漏れないように押し当ててください。
 6. 頸椎骨折の場合には、必ず二人で行ってください。補助者は患者の頭側に座り、両手で下顎出しを行いマスクを当ててください。

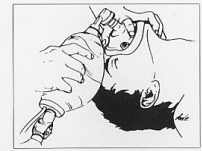


図 3

- マスクの密着・送気用バッグの圧迫
7. 送気用バッグを一定のリズムで圧迫し、緩めてください。この動作を繰り返し行います。
 8. 送気用バッグを圧迫し緩めながら、患者の胸部が起伏するかどうかを目視で確認してください。



図 4

9. 呼吸・吸気ができず胸部の起伏が充分でないときは、マスクの密着が不十分である可能性があります。気道確保を含めて再度確認を行ってください。

10. 必要に応じて、酸素を供給しながら人工呼吸を行うことができます。送気用バッグ後部の吸入弁部の酸素チューブ接続口に酸素チューブ（別途購入品）を接続し、チューブの端を酸素流量計に接続してください。

40%以上の高濃度酸素を必要とする場合には、専用のリザーバーバルブ及びリザーバーバッグを送気用バッグの吸入弁部の接続口に取り付けてください。送気用バッグの復元時にリザーバーバッグに貯留された酸素ガスを送気用バッグ内に取り込まれ、これを患者に高濃度酸素として供給します。

酸素流量と酸素濃度のめやすは以下のとおり。

成人用の場合

酸素流量 (換気量: ml/呼吸回数)	酸素濃度 (%)			
	600×20	750×12	750×20	1000×20
5 L/min	58(33)	65(33)	50(30)	55(30)
10 L/min	80(37)	99(37)	99(37)	88(37)
15 L/min	99(45)	99(45)	99(45)	99(45)

小児用の場合

酸素流量 (換気量: ml/呼吸回数)	酸素濃度 (%)			
	70×30	200×20	200×30	300×20
2 L/min	95(65)	58(37)	50(37)	45(34)
5 L/min	99(83)	99(44)	96(43)	84(37)
10 L/min	99(90)	99(46)	99(45)	99(45)

乳児用の場合

酸素流量 (換気量: ml/呼吸回数)	酸素濃度 (%)				
	20×30	20×60	40×30	40×60	70×30
2 L/min	99(72)	99(70)	99(70)	99(58)	97(55)
5 L/min	99(77)	99(75)	99(74)	99(72)	99(65)
10 L/min	99(94)	99(90)	99(90)	99(80)	99(79)

() 内はリザーバーバッグなしの場合

【取扱上の注意】

■取扱上の注意

1. 本器の使用中は、マスクの透明部分を通し患者の口唇と顔の色変化を観察してください。
2. 本器の使用中は、患者の体の保温に努めてください。
3. 本器を改造しないでください。

■過圧制限弁のロック機能について（成人用のみ）

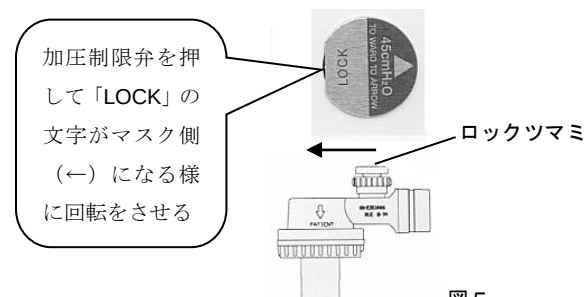


図5

過圧制限弁のロック機能は、大きい圧力で又換気量を多く送気する場合に使用します。図5のように、ロックツマミを回し

「LOCK」の文字をマスク側に向けます。この状態で送気用バッグを圧迫すると、送出された空気は患者肺胞内に送られます。逆に「45cmH₂O」をマスク側、「LOCK」をバッグ側になると、ロックは解除されて過圧制限弁が作動し肺胞内には45cmH₂O以上の圧力はかかりません。

■酸素使用時の取扱上の注意

1. 酸素使用中は発火物を近づけないでください。（引火、爆発のおそれがあります）
2. 別途購入品の酸素チューブ、リザーバーバッグ及びリザーバーバルブは必ず規格のものを使用してください。規格外のものを使用すると酸素が正しく供給できないことがあります。

*【保管方法及び有効期間等】

■保管方法

1. 浸水に注意し、高温多湿・直射日光を避けて保管してください。
2. 化学薬品の保管場所やガスの発生する場所は避けて保管してください。
3. 保管環境は、-40℃～+60℃です。

■使用期限

製造後5年以内（使用期限内であっても破損・変色等が発生した時点で廃棄してください）

**【保守・点検に係わる事項】

■消毒・滅菌方法

1. 使用後は呼吸弁部及び吸入弁部を分解し、各構成品を水又は温水で洗浄した後、薬液消毒又はオートクレーブ滅菌を行ってください。
2. 薬液消毒剤（例：グルコン酸クロルヘキシジン液0.1～0.5%溶液水）で消毒した場合は、構成品をよくすすいだ後、乾燥させてから組み立ててください。

■作動確認

1. 消毒又は滅菌後、各部に損傷等がないことを確認してから組立をしてください。組立後は作動確認をしてください。
2. 小児用及び乳児用の場合、呼吸弁部のマスク接続口を片手で塞ぎ、送気用バッグを圧迫したとき、過圧制限弁が作動することを確認してください。
3. 成人用（過圧制限弁ロック機能付）
 - ① 送気用バッグを圧迫したとき、呼吸弁のマスク接続口からの送気が十分であるかどうか、又圧迫を解除したときにバッグが復元することを確認してください。
 - ② 過圧制限弁のロック機能を解除した状態で呼吸弁のマスク接続口を片手で塞ぎ、送気用バッグを圧迫したときに過圧制限弁が作動することを確認してください。
 - ③ 過圧制限弁のロック機能を設定（LOCK）し、呼吸弁のマスク接続口を片手で塞いだ状態で送気用バッグを圧迫したとき、加圧制限弁が作動せず、十分な送気ができていることを確認してください。

**【製造販売業者及び製造業者の氏名又は名称等】

製造販売業者：アイデアル・メディカル株式会社

製造業者：GaleMed Limited Taipei Branch